

No.1  
No.2

反対に、同種の民族に対しては、戦争においても非人道的な仕掛けは用いないといった、とある「騎士道」があったと言えましょう。しかしこれも、1861年から1865年に勃発したアメリカ南北戦争によって、消失しました。このことから双六の盤面上ではこの2つのマスには、イベントが設置されています。年代としては、ボンテイヤック戦争が先で、南北戦争が後です。しかし騎士道を前提とした戦争ルールの在り方と大量殺戮の発想を意図的に対比させるため、No.1のマスとno,2のマスは前後しています。後の出来事に、大きく関わります。

おすすめ書籍 映画でなぞるアメリカ史 吉浦潤次【著】

No.3

## GatlingGun 1861 To the age of automatic loading device and automatic fire

ガトリング砲 自動装填装置自動連射の時代へ

8世紀末から9世紀初頭にかけて、銃の原型となる火槍が中国で使われていました。その後世界中で発達し、15世紀ごろにはヨーロッパでも銃が生産されるようになりました。しかし14世紀にはすでにヨーロッパを中心に銃の速射性を向上させるための研究開発がなされていました。レオナルド・ダ・ビンチも、機関銃の開発を試みた一人です。とはいえ騎士道精神が根強いヨーロッパでは、白人同士の戦いで大量殺戮を目的とする武器の使用は騎士道に反するとされ、専ら対植民地住民に使用されていました。ところが倫理的制約の薄かった新興国アメリカ合衆国においては違いました。白人同士の戦いであった南北戦争では軍事合理性が騎士道精神より優先され、連射銃が使われました。前装式小銃が主流だった南北戦争の時代、200発/分のガトリング砲連射速度は驚異的。さらに自動装填装置自動連射銃は進歩を遂げ、倫理的制約のないアメリカは、武器先進国と呼ばれるに至るのです。

### 背景その他

南北戦争以前、特にヨーロッパでは、同人種との戦いにおいては「騎士道」が優先されていました。その反面、異民族、特に白人ではない人種に向けられる作戦においては、非人道的であってもかまわないという風潮が蔓延っていました。この精神が大航海時代以降の繁栄を底支えたのです。連射が可能なガトリング砲は、重量が重く、機動性と軽便さに欠けていたので、野戦では使えない代物でしたが、兵器接舷攻撃には大変有効でした。イギリスやロシアは植民地の盗賊撃退用に使い、暴動の鎮圧にも効果絶大でした。植民地では、その政策に不満を持った原住民の反乱が都度都度起こりましたが、その鎮圧の手段には、愁著なく用いていました。原住民は、異文化、異教徒の有色人種であったのです。戦場では1950年代に機動性に富む航空機に装着され、航空機用機関砲として再び使われるようになっていました。1950年代…疾うの昔に、同族に対する騎士道精神など、失われていました。

おすすめ書籍 図説世界史を変えた50の武器 ジョエルレヴィ【著】